

備前市事務事業評価表

事務事業名	子育て支援事業		コード	担当課	学校教育課
			03-01-01-06	担当者	重成育枝
事業実施期間			電話	64-1840	
総合計画 事業（政策）体系	大項目	地域文化と人が輝くまちづくり			
	中項目	未来を支える人材を育むまちづくり			
	小項目	幼稚園			
	施策	子育て支援活動の推進			

事業について	
目的	未就園の幼児の成長を支え、親子が楽しく生活できる子育てを支援するとともに、地域の教育力を高める。また、幼稚園に就園する保育に欠ける幼児が、養護の下にくつろいだ雰囲気の中で、健全な心身の発達を図ることができるよう援助する。
対象（誰のために）	市内の未就園の親子。 日生・吉永地区の保育に欠ける幼児。
内容	幼稚園を開放し、幼稚園児と一緒に活動したり、親子のふれ合いの楽しさを感じながら、親同士の悩みを話し合ったりする場や研修の機会を設定するための補助金を支給する。 家庭養育の補完のための、預かり保育指導員を配置する。

事業の結果									
実施項目	17年度								
	回数など	(単位)		回数など	(単位)		回数など	(単位)	
	子育て広場合計実施回数	39回							
	子育て広場延べ参加人数	702人							
預かり保育日合計	687日								
預かり保育1日当たり平均利用人数	154人								
事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源		
	直接事業費	13,675	国庫補助金等		直接事業費		国庫補助金等		
	人件費	2,280	受益者負担		人件費		受益者負担		
	合計	15,955	市債		合計	0	市債		
必要人員	0.25人								
結果指標①	結果指標名	子育て広場合計実施回数							
	結果指標量	39							
	単位	回							
	対前年比	—							
結果指標②	事業費	606,000円							
	単位当たりコスト①	15,538円							
	結果指標名	預かり保育日合計							
	結果指標量	687							
単位	日								
対前年比	—								
事業費	15,349,000円								
単位当たりコスト②	22,342円								

事業の成果			
成果指標名	子育て広場の1園あたりの実施回数（回）	式又は説明	実施回数／実施園
成果指標量	4		
対前年比	—	0.00%	
到達目標値	6	到達目標年度	平成20年

事務事業の評価		(平成17年度事業)	
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等：	課題認識 子育て広場については、幼児が安全に遊んだり、異年齢の幼児と遊んだりすることが、健やかな成長を促す上で大切なことであり、未就園児の幼児にも機会を提供する上で妥当な事業である。 預かり保育制度は、地域の実情から実施する必要のある事業である。
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input checked="" type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
効率性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input checked="" type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である	預かり保育については、保護者に家庭教育の大切さの認識を高めると共に、預かり保育の目的も周知することが必要である。
	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	
	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input checked="" type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	
有効性の評価	職場の効率化	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	子育て支援において、子育てに不安を抱く保護者に対して有益な情報を提供することは有効な手段であると考え。幼稚園を幼児を持つ家庭の子育て支援センター的な機能を持つ場所として認知されるよう、事業を推進していく必要がある。
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	
	成果向上の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 今後は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	
市民参画度		<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	

総合評価		評価区分
<input checked="" type="checkbox"/> 預かり保育については、保護者に目的を周知していくことが必要である。また、現在幼稚園は、幼児教育の専門施設であるという本来の役割に加えて、地域の子育てを支援し、親と子が共に育つ場としての新たな役割を果たしていくことが求められているので必要事業である。		<A~E> B

今後の方向性			
<input type="checkbox"/> さらに重点化する（行政資源を集中的に投入する）	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 完了・統合		
翌年度結果指標量①	45	結果指標量②	680
目標値	結果指標量	5	

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	預かり保育の目的を周知する。	20年度	保護者が幼児期の大切さの認識を持ち、預かり保育の選択を慎重に検討する。
有効性	広報誌等で子育て広場の実施をアピールする。	19年度	幼児教育の大切さを認識でき子育て広場への参加が増える。

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。